

○説明者 1981年以後、ドイツの人口は減少傾向にありますし、ライネフェルデの場合は、1989年の壁崩壊以来、かなり急激な人口減少を経験しております。

1989年直前の状態というのは、従業員というか、就労者という数が、結局、住居の数だったわけです。

ですから、1990年以降は、もっとそれが急速に加速して、それまで壁崩壊のときにすぐに出ていった人たちの後に、だんだんこんなところには住みたくないということで、自分で土地を買ったり、家を買ったりして、ライネフェルデ以外の、それほど遠くじゃないんでしょうけれども、田舎の方に出ていった人が多いと。

いずれにしても1万6,000ぐらいあった人口が、ライネフェルデですよ、ヴォルピス抜きで、今の時点で9,000近くまで下がってきているわけです。ですから、これはもう減築というのはしようがないというか、必要でした。

それは今の時点では可能性はないと思うんですけども、新しい企業が来て、人口がもしもふえるようなことがあれば、確かに減築した部分にもう一度建てればいいんだと。そうすれば、少なくともインフラストラクチャーに関する道路はあったわけですし、それから道路に埋設するような電気設備、その他、すべて非常に単純にできるようになっているわけですから、もしもそういう状態になることがあれば、新しく建てることは全然問題ないと思います。

○土師議員 再生のための創意工夫をしたところに価値観があるわけですね。

○説明者 そういうことですね。

○中井議員 中小企業そのもののことではございませんが、ライネフェルデ市の歳入構造をお教えいただけますか。

○説明者 歳入2,250万ユーロ、そのうち1,200万ユーロが税収です。

企業から出る税金がそのうちの7割、後は、固定資産税みたいなものです。

次が、1,000万ユーロ、それが連邦及び州からの助成金というか、補助金、国から来るお金です。

○中井議員 エッセンだったか、日本で言うところの市民税というものがないというふうに聞いたんですが、それはこちらの方でもないんですか。

○説明者 そういうことですね、ありません。

要するに、土地を持っている人は土地の税金がかかりますけれども、土地を持っていない、いわゆるアパートに住んでいる人は、ダイレクトには市には払いません。間接的に、例えばいわゆる物を買ったときに消費税とか、そういうもので国の方から回ってくるとか、そういう形では来ますけれども。

○中井議員 そうなりますと、自主財源としては、企業誘致をして企業活動から得る税収というのは、非常に大きな、また重要な位置にあるというふうに思うんですが、その点どうです

か。

○説明者 そういうことですね。

○中井議員 もう一つ、農業はどんなもんですか。

○説明者 ありますけれども、昔の東ドイツ時代からの農業組織みたいなのがあって、それはみんな会社組織になっています。ただ、それが市にとって余り意味がないのは、このあたりの農業というのは、結局、日本の米をつくる人たちと同じで、むしろ補助金もらっているということです。ですから、土地の税金は払いますけれども、それ以外には全然税収には関係ありません。

○池田議員 財政局長でいらっしゃるの、今の関連で、収支のこれまでの推移と見通し、それをぜひお聞かせいただきたい。

○説明者 常に黒字です。ですから、正しく上手に資本投下しているので、多分、そういうことになっているんでしょう。壁崩壊以後、1年だけ赤字だった年があります。

○土師議員 今回の視察は、環境をテーマに我々は来ておりまして、このライネフェルデにしましては、まちの再生というんでしょうか、いろんな団地を創意工夫をした取り組みに対して大変感動しました。最後に、住民の環境意識について、エコ団地の再生は、このライネフェルデでは非常に特色があるわけですが、環境の観点から、スクラップ・アンド・ビルドというのじゃなしにリメイクをしていくことに、誇りを持っておられると思いますが、その辺りについてお教えいただければありがたいのですがいかがでしょうか。

最後、特に例えば源泉がわいていたりしましたですね、旧村のところには。したがって、私は大変環境意識が強いと思うんですけども、その点いかがなんでしょうか。

○説明者 ここは、ライネフェルデ市とは言いますけれども、皆さんがごらんになっていたとおり、そういう大都市というようなイメージじゃなくて、本当に森の中というか、緑の中にある村落が少し大きくなったぐらいのもんですから、まちの人々というのは、当然、周りに緑があったり、そういう水があったりというのは、割と当然のこととして受け入れてますし、ただあそこの泉のところを市が少し整備していますが、ああいうことに関しては、やはり前は本当に何もなかったわけですから、非常にいいことだというふうに聞いていますし、住宅の周りに例えばきれいな木が植えられたり、その他いろいろな整備、外構、それからオープンスペースの整備がされているということに関しては、非常にポジティブに住民は受け取っているということです。

こういう団地再生、それから都市再生、都市開発、都市再生という仕事をするときに、やっぱりそういう経済的なものを見ていましたから、一番大事なのはやっぱりお金でしょう。その中でも、これだけのお金でやるといったときに、それは守られなければならない。それが変に動き出すと、非常に問題が大きくなります。

自分としても非常に誇りに思っているのは、自分の監督のもとに、そういう例が一つもな

いことです。つまり、マスタープランで計画されて、そこから発令してきたいろんなプロジェクトに関して、そこでの予算計画がなされて、その予算計画もきちんとやって、できたものがその予算計画からほとんど外れていないという、そういう状況をつくり出しました。それは、もちろん自分だけの力じゃないけれども、そういうことがないと、どうしてもやっぱり信用とか、その他いろんな問題が出てきますので、それだけはぜひ気をつけてください。

幾らいいアイデアがあっても、いい計画があっても、それをサポートするお金がないとだめだし、それがなければ当然実現できないわけですし、その際に、決められたお金を決められた額でしか出さないと、その態度をずっと守ってきました。

○中井議員 どうもありがとうございました。

(ライネフェルデ市役所)

